

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	環境園芸学科			
科目名称	教育相談						授業形態	講義		
科目コード	421160	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験担当教員		○	Active・L	○
担当教員名	神垣 彬子								ICT活用	○
授業概要	教育相談の視点を通して、子どもや子どもを取り巻く社会全体の実態の理解を目的とする。 教育現場における問題発生の察知・把握、教師として行うべき援助、保護者への支援と協力関係、外部専門家の活用と協働、カウンセリングの手法について具体的なケースを考えながら学ぶ。 公立小・中学校でスクールカウンセラーの経験があり、また、保育、療育の現場での実務経験を有する教員が実際の事例検討等を交えた授業を行う。									
関連する科目	教育心理学									
授業の方法と進め方	講義は、パワーポイントで提示する資料や適宜講義内容に沿った視聴覚教材を用いて行う。 講義内容によっては、ディスカッションやロールプレイを用いて学びを深める場合がある。									
第1回	第1回 学校教育相談とはなにか 教育活動の一環としての学校教育相談の特性について学ぶ									
第2回	第2回 カウンセリングの理論と実際 教育相談は広義の意味でのカウンセリングに含まれることを知り、カウンセリングの理論や技法を正しく理解する									
第3回	第3回 児童・生徒の問題の理解と対応 教育相談に携わる上で知っておくべき子どもの心身に生じる様々な「問題」について理解する									
第4回	第4回 児童・生徒理解のための精神医学的な基礎 教育相談に携わる上で知っておくべき子どもの心身に生じる様々な「問題」について理解する									
第5回	第5回 児童・生徒の神経症的問題の理解と対応 教育相談に携わる上で知っておくべき子どもの心身に生じる様々な「問題」について理解する									
第6回	第6回 不登校の理解と対応 今日の教育現場を取り巻く諸問題について理解する									
第7回	第7回 いじめの理解と対応 今日の教育現場を取り巻く諸問題について理解する									
第8回	第8回 学級崩壊の理解と対応 今日の教育現場を取り巻く諸問題について理解する									
第9回	第9回 反社会的問題の理解と対応 今日の教育現場を取り巻く諸問題について理解する									
第10回	第10回 開発的カウンセリングの活用 狭義のカウンセリングと教育相談との違いを理解し、児童・生徒の可能性を開発できる、あるいは問題を予防できる教育相談のあり方を考える									
第11回	第11回 保護者に対する支援 教育に携わる大人の問題を理解し、対応と対策についての知識を深める									
第12回	第12回 校内での協力体制 教育に携わる大人の問題を理解し、対応と対策についての知識を深める									
第13回	第13回 他機関・地域との連携									

	教育に携わる大人の問題を理解し、対応と対策についての知識を深める
第14回	第14回 教員のメンタルヘルス 教育に携わる者の心身の健康についての実態を知ること、将来に向けての予防的対策を学ぶ
第15回	第15回 視聴覚教材を用いた最新の教育問題の傾向と対策に関する学び 学校における児童・生徒、あるいは教師との関係の中で、教育相談の理論や技術をいかに活用し、豊かな学校生活を送るかに ついて学ぶ
授業の達成目標	① 教育相談の意義とその方法について説明することができる。【職業知識・技能の育成】 ② 教育相談の理論と子どもの実態および問題について理解し、具体的な問題に関する対応方法を説明することができる。【職業知識・技能の育成】 ③ 教育実践の中で教育相談を実践しようとする意欲をもつことができ、実際の相談支援活動の内容を具体的に計画・説明することができる。【態度・志向性の育成】
学位授与方針(DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力－(1)／2.汎用的技能を応用し活用する能力－(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養－(1)
授業時間外学習【予習】	授業前に30分程度ノートの予習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。次回の講義の予習箇所については、講義終了前に毎回提示する。
授業時間外学【復習】	授業後に30分程度ノートの復習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。当日の講義の復習箇所については、講義終了前に毎回提示する。
課題に対するフィードバック	最終試験の採点基準および回答のポイントについては、授業内容の振り返りとともに最終講義内で事前に解説する。
評価方法・基準	期末レポート（基礎用語の理解と指定評価方法テーマに対する論述問題）100点の結果で評価する。
テキスト	MINERVA教職講座10 学校教育相談 一丸藤太郎・菅野信夫 著 ミネルヴァ書房
参考書	適宜紹介する。
備考	